

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 8
2016. 12TOPICS
1

岡山大学中国長春事務所が「在瀋陽日本国総領事館表彰」を受賞

本学中国長春事務所は12月2日、中国での貢献をたたえられ、「在瀋陽日本国総領事館表彰」を受賞しました。

中国・瀋陽で開催された授賞式には、本学から山本洋子グローバル・パートナーズセンター長、長春事務所の大亀雅彦副所長、大学院社会文化科学研究科の田口雅弘教授、宋賀群同事務所職員が出席。在瀋陽日本国総領事館の石塚英樹総領事からお祝いの言葉とともに、賞状と盾が贈られました。

当日の授賞式には遼寧省・邢志剛副省長や瀋陽・張景輝副市長をはじめ、東北三省政府関係者、瀋陽にある米国総領事、ロシア総領事といった各国領事団など計295人が出席し、その他協賛企業・団体・地方自治体計29社が参加しました。

本学の受賞理由について、石塚総領事は「岡山大学は、今年東北師範大学との大学間交流において30周年を迎え、これまで東北師範大学をはじめとする長春の大学において、学生交流、大学間交流において大きな貢献を行ってきました。特に、2007年に東北師範大学内に設立された岡山大学中国長春事務所のこれらの交流における役割は大きく、その貢献を称え、岡山大学中国事務所に総領事表彰を授与します」と話しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6354.html

TOPICS
2

大学ブランドランキングで岡山大学が第1位

(中国・四国編)

日経BPコンサルティングの「大学ブランド・イメージ調査2016～17(中国・四国編)」において、本学が大学ブランドランキングで初めて第1位に輝きました。

同調査は、中国・四国9県の主要59大学について、イメージなどを調査。回答結果が11月30日に発表され、本学が「いま注目されている、旬である」「教育機関としてのビジョンがある」「存在感がある」など17項目で第1位を獲得し、大学ブランドランキング第1位となりました。2010年の中国・四国編調査開始以来、本学が大学ブランドランキング第1位を獲得したのは初めてです。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6327.html



最近の大学の取り組み

「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。5th」を開催



本学学生総合支援センター学生相談室(障がい学生支援室共催)は12月15日、「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。5th」を本学創立五十周年記念館で開催しました。

本セミナーは、セクシュアルマイノリティについての理解を深め、教育機関における支援のあり方を考えることを目的に、平成24年から毎年開催。今回は「弁護士夫婦(ふうふ)」として多数のメディアでもご活躍中の南和行さん、吉田昌史さんと、南さんの母親の南ヤエさんが、「息子から同性愛をカミングアウトされて—弁護士夫婦と母親の物語—」と題し、講演を行いました。同性愛をカミングアウトした動機や母親が受け入れていくまでの過程に加え、教育現場

で求められる支援の具体的な方法について、和やかな雰囲気の中で説明がありました。学生ら約200人の参加者が、熱心に聴講しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6391.html



TOPICS

3

平成28年度岡山大学解剖体慰霊祭を挙行



本学は12月17日、本学での解剖実習や疾病の原因解明のため献体された方々を慰霊する「平成28年度岡山大学解剖体慰霊祭」を鹿田地区のJunko Fukutake Hallで執り行いました。

遺族や本学教職員、学生ら約550人が参列。学生サークルanimatoの演奏が続く中、献花して祭壇に手をあわせ、昨年10月12日から今年10月29日までに逝去された186人のご冥福をお祈りしました。

解剖体慰霊祭では、大塚愛二医学部長、浅海淳一歯学部長、遺族代表があいさつ。学生代表が「献体者の崇高なご厚意に感謝し、今後の疾病治療に生かします」と誓いを述べました。



参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6381.html

RESEARCH HIGHLIGHTS 1

世界初! イネの節でリンを分配する輸送体「SPDT」を発見 コメのリン蓄積低減とリン資源の有効利用に期待

資源植物科学研究所の山地直樹准教授、馬建鋒教授らの研究グループは、イネの節で栄養素が分配される仕組みを解析し、イネ種子へのリンの蓄積に関わる輸送体「SPDT」を世界で初めて突き止めました。本研究成果は12月21日英国時間午後6時、英国の科学雑誌「Nature」で公開されます。

本研究で見出されたイネの節で働く輸送体SPDTは、根から吸収したリンを種子に優先的に蓄積させる役割があります。この輸送体の機能が失われると、コメのリン濃度が減少しますが収穫量にはほとんど影響しません。本研究成果により、①リン酸施肥量の削減、②消化されずに環境中に放出されるリンによる富栄養化の抑制、③カルシウム・鉄・亜鉛などの栄養素の消化吸収の改善が期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id440.html



RESEARCH HIGHLIGHTS 2

広がったがん細胞へ選択的に治療薬を届ける新技術を開発 新規T細胞「HOZOT」のウイルス療法への応用

大学院医歯薬学総合研究科(医)消化器外科学分野の藤原俊義教授、岡山大学病院新医療研究開発センターの田澤大准教授、株式会社林原の中村修治研究員らの研究グループは、2006年に林原が開発した新規の制御性T細胞「HOZOT(ホゾティ)」を用いて、腫瘍融解ウイルス製剤をがん細胞へ選択的に運搬する技術の開発に成功しました。本研究成果は11月30日、英国の科学雑誌『Scientific Reports』(Nature Publishing Group)電子版で公開されました。

今後、腫瘍融解ウイルスを搭載したHOZOT細胞を用いたウイルス療法の臨床開発を進めていくことで、将来的にヒトへの投与が可能となれば、進行したがん患者の生存率を改善できる可能性が期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id435.html



RESEARCH HIGHLIGHTS 3

南海トラフ巨大地震発生時に岡山市沿岸を襲う津波の ピークをリアルタイムで予測する手法を開発

大学院環境生命科学研究科(環)の前野詩朗教授らの研究チームは、南海トラフ巨大地震発生下における、岡山市沿岸の津波のピークを高精度でリアルタイムに予測する簡便な手法(簡易予測法)を開発しました。本研究成果は2017年2月に土木学会の水工学論文集第61巻に掲載されます。

簡易予測法は、岡山市沿岸が紀伊水道経由の津波の被害を受けることを踏まえ、紀伊水道入口部で得られた津波の波形から、岡山市沿岸で津波がピークになる水位やその到達時間を早期に予測するためのものです。本研究成果により、地震発生時における津波の浸水被害の予測や住民の避難対策の迅速化等、岡山市の津波防災への貢献が期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id433.html

